

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3038 号	氏名	長池 弘江
論文審査担当者	主査 新家 俊郎 教授 副査 宮崎 章 教授 副査 柴田 孝則 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>2 型糖尿病治療薬である Dulaglutide (Dula)は週 1 回の GLP-1 受容体作動薬 (GLP-1RA) であり、1 日 1 回投与の GLP-1RA、Liraglutide (Lira) と同等の血糖降下作用を持つことが報告されている。本研究では Lira 0.9mg/日を 3 か月以上使用している 2 型糖尿病患者を対象に、Lira 0.9 mg/日継続群、Dula 0.75 mg/週変更群に無作為に割付し、開始 24 週での酸化ストレスマーカー (d-ROMs)、血管内皮機能 (L_RHI)、24 時間持続血糖測定 (CGM)、血液・尿検査、患者満足度指標 (DTSQ)、食行動質問指標を評価した。試験開始前後の変化は、d-ROMs、L_RHI には両群間に差は認めず、DTSQ では Dula 群で有意に改善、CGM では Dula 群では治療後の平均血糖及び MAGE が Lira 群よりも優れていた。</p> <p>本論文は、週 1 回製剤の Dula は 1 日 1 回製剤の Lira と比較し、酸化ストレス及び血管内皮機能への効果は同等であるが、糖代謝は悪化させず、注射回数の減少による利便性の改善を示した点で学術上高い価値を有し、学位論文に値すると判断した。</p>			
<p>論文題名 Effect of dulaglutide versus liraglutide on glucose variability, oxidative stress, and endothelial function in type 2 diabetes: A prospective study (2 型糖尿病患者におけるデュラグルチド, リラグルチドによる酸化ストレス及び血管内皮機能に対する影響)</p>			
<p>掲載雑誌名 Diabetes Therapy (2019 年掲載予定)</p>			

(主査が記載、500 字以内)